



ジアミンフリーなのにかぶれた -ヘアカラーリング製品の注意(1)-

当センターに、「ジアミンアレルギーのため“ジアミンフリー”のカラーで施術をお願いしたが、美容院で染めた後にかぶれてしまった」という相談が寄せられました。

ヘアカラーで一度かぶれた経験がある方は、ヘアカラーリングをする際に注意が必要です。しかし現在は製品が多様化し、表示や分類が分かりにくいこともあります。今回は、ヘアカラーの仕組みと注意点を整理します。



■ ヘアカラーの制度上の分類

ヘアカラーリング製品は、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(薬機法)」に基づき、医薬部外品(染毛剤)と化粧品(染毛料)に区分されます。

「ヘアカラー」や「ブリーチ」は医薬部外品で、毛髪内部で化学反応を伴うタイプです。一方、ヘアマニキュアやカラートリートメントなどは化粧品で、毛髪内部で化学反応を伴わず、毛髪表面への着色や内部への浸透によって色を付けます。

このように、「毛髪内部で化学反応を伴うかどうか」が大きな区分となります。

薬機法上の区分	カテゴリー名称	一般名称	髪に色をつける主な成分	特徴
医薬部外品	永久染毛剤	ヘアカラー 白髪染め・おしゃれ染め	酸化染料※	化学反応(酸化)で染料を重合
	脱色剤	ブリーチ ヘアライトナー		化学反応(酸化)で脱色
化粧品	半永久染毛料	ヘアマニキュア カラートリートメント カラーリンス など	酸性染料 塩基性染料 植物由来の染料 等	直接染料を髪の内部に浸透させる
	一時染毛料	カラースプレー ヘアマスカラ 等	一時着色剤(顔料) 等	髪の表面に色をつける

※ 永久染毛剤には、酸化染料を使用しないオハグロ式白髪染めも一部あります。

■ ヘアカラー(永久染毛剤)の仕組み

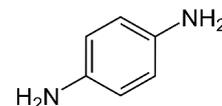
ヘアカラーは、毛髪内部で酸化反応を起こさせて、落ちにくい色素を生成する仕組みです。

第1剤(酸化染料<染料前駆体>+アルカリ剤〔主にアンモニア〕)は毛髪を膨潤させ、無色で小さな染料前駆体を内部に浸透させます。続いて第2剤(過酸化水素など)がメラニンを分解して髪を明るくするとともに、染料前駆体を酸化して反応性の高い中間体に変えます。毛髪内部でその中間体が結合(酸化重合)して大きな色素分子となるため、色が長持ちします。

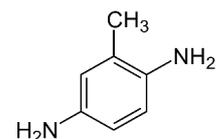
■ ジアミンアレルギー

ヘアカラーに使われる酸化染料のうち、パラフェニレンジアミン(PPD)やトルエン-2,5-ジアミン(2,5-ジアミノトルエン)などのジアミン構造をもつ成分は、発色がよく色持ちに優れることから、長年広く使用されてきました。一方で、これらのジアミン系酸化染料はアレルギーの原因となることがあり、いわゆる「ジアミンアレルギー」と呼ばれています。

パラフェニレンジアミン



トルエン-2,5-ジアミン



- ・多くは、IV型アレルギー(遅延型接触皮膚炎):数時間から数日後に発症。
- ・まれに、I型アレルギー(即時型):じんましん、呼吸困難、アナフィラキシー*

(※アナフィラキシーとは、「アレルゲン等の侵入により、複数臓器に全身性のアレルギー症状が惹起され、**生命に危機を与えうる過敏反応**」と定義されています（日本アレルギー学会の「アナフィラキシーガイドライン 2022」の定義）

が起こると報告されています。

一度感作されると、再使用時により強い反応が現れる可能性があります。また、構造が類似した他の酸化染料にも交差反応を示すことがあります。

■ 「ジアミンフリー」の注意点

近年、「ジアミンフリー」と表示された製品も見られます。一般に PPD など特定のジアミンを含まないことを示しますが、すべての酸化染料を含まないという意味ではありません。ジアミン骨格を持たない酸化染料でもアレルギーが起こる可能性はあります。

また、「ジアミンフリー」に法令上や業界の統一定義はなく、製品ごとに範囲が異なります。

家庭用のヘアカラー製品には、「今までにヘアカラーでかぶれたことのある方は、絶対に使用しないこと」と必ずパッケージ正面に注意表示がされています。一度アレルギー症状を起こした場合、再使用によりより重い症状が現れるおそれがあるためです。過去にヘアカラーでかぶれたことがある場合は、「ジアミンフリー」と記載された製品であっても、ヘアカラー（永久染毛剤）は重度のアレルギーを発症する可能性が高く使用できません。

美容院などで「ジアミンフリーの製品」というと、一般に化粧品の『染毛料』（ヘアマニキュアなど）を指すことが多いですが、一部、「PPD などのジアミン骨格を含む酸化染料を使用していないヘアカラー」を指すこともあるようです。最初に紹介した事例は、「**ジアミンフリー = 化粧品の染毛料**」ではなかった事例です。

■ パッチテスト(皮膚アレルギー試験)の重要性

ヘアカラーには、使用前に毎回パッチテストが必要です。これは、過去に問題なく使用できた場合でも、体質の変化などにより新たにアレルギーを発症する可能性があるためです。

パッチテストは使用 48 時間前に毎回行います。塗布後 30 分後と 48 時間後に異常（かゆみ・赤み・水疱など）がないか確認し、異常があれば使用できません。具体的な方法は、日本ヘアカラー工業会のパッチテストの実施方法 (https://www.jhcia.org/information/4_patchtest.html) をご確認ください。

■ まとめ：ヘアカラー（永久染毛剤）を使う前に

ヘアカラーでかぶれた経験のある人は、美容院でも、自宅でもヘアカラーを使用できません

- ・美容院では必ず、過去にかぶれたことがあると伝えましょう。
- ・「ジアミンフリー」と記載されていてもヘアカラーの場合があります。使用（施術）前に確認しましょう。
- ・ヘアカラーは、染毛 48 時間前に毎回パッチテストが必要です。

ヘアカラーは化学反応を利用する技術です。仕組みを理解し準備することが、安全への第一歩です。

参考にした情報

- ・日本ヘアカラー工業会ウェブサイト：<https://www.jhcia.org/>
- ・政府広報オンライン：「ヘアカラーによる「かぶれ」に要注意！ アレルギーが突然発症することもある。」
<https://www.gov-online.go.jp/article/201905/entry-8364.html>
- ・消費者安全調査委員会報告書：「毛染めによる皮膚障害」https://www.caa.go.jp/policies/council/csic/report/report_008/